

各 関 係 機 関 長 殿

岡山県病虫害防除所長

(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について
病虫害発生予報第1号を下記のとおり発表したのを送付します。

平成 26 年 度 病 害 虫 発 生 予 報 第 1 号

平成26年 4月11日

岡 山 県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
麦類	赤かび病	やや早	並	タマネギ	べと病	—	少
モモ	灰星病 カメムシ類	早 並	並 多	イチゴ	ハダニ類	—	並
イチゴ トマト ナス レタス	灰色かび病	—	並				

1 普通作物

(麦 類)

(1) 赤かび病

予報内容

発生時期 やや早

発生量 並

予報の根拠

ア. 麦の生育は全般的に平年よりやや早く推移している。

イ. 4月10日発表の1か月予報によると、気温および降水量はほぼ平年並とされている。

防除上の参考事項

ア. 本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、散布適期は二条大麦では

穂揃期とその7～10日後、小麦では開花最盛期頃（出穂7日後頃）とその7～10日後の2回である。

イ. 本病の第一次伝染源である子とう殻の形成が盛んになるのは、日平均気温が13℃以上で降雨の直後である。子とう胞子の飛散が盛んになるのは、日最高気温が15℃以上でかつ、日最低気温10℃以上、湿度80%以上または降雨直後である。この条件からみると岡山市のアメダス気象観測値では、3月の子とう殻形成および子とう胞子飛散好適日の出現は3月下旬から見られた。

ウ. 赤かび病は出穂期以降の気温が高く、湿度が高いまたは降水量が多いと発病が助長される。

エ. 国内産麦類の検査規格では、赤かび病による被害粒が10,000粒中5粒以上混入すると「規格外」となる。

2 果 樹

(モ モ)

(1) 灰星病（花腐れ、芽枯れ、枝病斑）

予報内容

発生時期 早

発生量 並

予報の根拠

ア. モモの開花時期は、平年よりやや早い。

イ. 4月10日発表の1か月予報によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) カメムシ類

予報内容

発生時期 並

発生量 多

予報の根拠

ア. 4月～7月のチャバネアオカメムシ及びクサギカメムシ予察灯飛来数は、前年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数との間に高い正の相関がある。岡山県における昨年2月～5月のスギ・ヒノキ花粉飛散数は、南部・北部ともに平年より多かった。

イ. 花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯への飛来予測数は、チャバネアオカメムシは赤磐市が1175.7頭（平年496.5頭）で平年より多く、津山市が361.5頭（平年327.5頭）で平年並と予測される。クサギカメムシは赤磐市が53.9頭（平年17.1頭）、津山市が441.6頭（平年198.0頭）でともに平年より多いと予測される。

ウ. 4月10日発表の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、発生時期は平年並と予想される。

3 野菜

(1) イチゴ、トマト、ナス、レタスの灰色かび病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月3日の巡回調査によると、イチゴでは発生圃場率が0%で平年(7.1%)より低く、ナスでは発生を認めず平年(0%)並であった。トマトでは100%で過去8年間の平均値(36.5%)より高かった。

イ. 4月10日発表の1か月予報によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

(2) タマネギべと病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. 4月3日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(19.6%)より低かった。

イ. 4月10日発表の1か月予報によると、気温および降水量はほぼ平年並とされており、発病を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 気温15℃前後で雨が多いと多発生しやすい。

(3) イチゴのハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月3日の巡回調査によると、発生圃場率は71.4%で平年(73.2%)並であった。

イ. 4月10日発表の1か月予報によると、気温はほぼ平年並とされており、発生を助長する条件ではない。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、

http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。